

編集後記

『中京大学文学会論叢』第十号をお届けする。

今号は、今年度限りで退職なさる福井佳夫先生のご退職記念号としての編集となった。南北朝時代の中国文学から、近現代史の研究まで、論文十篇を掲載するバラエティに富むものとなった。お忙しい折にご投稿くださった会員の皆様に感謝申し上げる。

詳しくは略歴をご覧いただきたいが、福井先生には、文学部の改組の際、言語表現学科設立の中心的な存在としてご尽力いただいたと聞く。一九八七年から本学に勤務され、三十五年以上にわたり、本学会の発展にも大きく貢献してくださった。心から感謝申し上げるとともに、先生の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

今年度から、対面形式で文学会春季・秋季大会講演会を開催できたことを喜ばしく思う。懇親会では、会員の方々の談笑する様子がそこかしこに見られ、オンラインでは得られない「場の共有」の重要性を思い知った。二〇二四年度春期大会のご案内は、四月以降、改めてお送りするので、今しばらくお待ちいただきたい。本会の発展のために、会員諸士には奮ってご参加いただければ幸いである。

(宮)

中京大学文学会論叢 第十号

(『中京国文学』通号 第四十三号)

令和六年三月十五日 発行

編集兼
発行者 中京大学文学会

代表 酒 井 敏

名古屋市昭和区八事本町一〇ノ二

電話 (〇五二) 八三五 七一

振替 名古屋 六一六〇三〇

印刷所 株式会社 一 誠 社

名古屋市昭和区下構町二ノ三

電話 (〇五二) 八五一 一一七

表紙題字(書) 樽本樹邨(英信) 名誉教授